

JCMA2023年度活動方針

“今こそ結束 One JCMA”

今こそ結束です。これからが我々の本領発揮です。MICE（リアル）の素晴らしさを多くの人々に体感いただきたい。そのためにも今こそ我々仲間が結束することが一番大事なことだと考えます。よろしくお願いします。

2022年度に策定したJCMA中期計画（2022-2026）も踏まえた上で、以下4つの活動指針を掲げる。

1. MICE業界認知度向上

政策提言

メディア
リレーション

横軸連携

寄附講座

2. 委員会活動の充実

委員間交流

委員長会議

委員増強

10周年事業
プロジェクト

3. リアル交流の復活/強化

サマーセミナー

最新テクノロジー活用の
委員会催事

会員増強

海外MOU
団体交流

4. 次世代育成と継承

次世代人材
支援体制

自主的な取
り組み支援

若手抜擢

役員のコミット

MICE業界とJCMAの更なる発展、ポストコロナにおけるMICEの本格復活にむけて、力強く活動推進する。

JCMA2023年度活動方針

活動方針の詳細

1. 「MICE 業界認知度向上」

- ① 政府・自治体等への MICE 振興に資する政策実現の働きかけ
- ② MICE 関連団体との横軸連携による発信力増大
- ③ メディアリレーション強化と情報発信力の向上
- ④ 寄附講座の実施

2. 「委員会活動の充実」

- ① 委員間・委員会間交流強化
- ② 委員会間連携による事業・催事の充実（規模・予算の効率活用）
- ③ 委員構成の増強（次世代若手人材の育成）
- ④ 協会 10 周年事業のプロジェクトチーム発足

3. 「リアル交流の復活/強化」

- ① 会員交流の復活（サマーセミナー、委員会総会の実施）
- ② 多様な会員（見込み会員含む）の協会活動への参画促進
- ③ 最新テクノロジー等を活用したリアル交流の強化
- ④ 関連国際団体との交流強化

4. 「次世代育成と継承」

- ① 協会としての次世代育成と継承へのコミットメント

活動方針の詳細

1. 「MICE 業界認知度向上」

MICE は課題解決のための手段である。その MICE の開催意義や効果について発信し、MICE 開催の有用性が広く社会に認知されるよう周知し続けることで我々の影響力を高め、各種規制緩和や補助金等助成制度強化の実現に努め、それらを活用することで更なる発展を図っていく。

① 政府・自治体等への MICE 振興に資する政策実現の働きかけ

- ・ 観光庁をはじめとした中央省庁、メディア、経済団体等への政策提言
- ・ MICE と観光の連携による相乗効果を見据え、幅広い視点で提言内容を検討する。
- ・ 自治体等による MICE 関連施策検討ための協議会、有識者会議、専門部会等の場における発言機会を最大限活用する。
- ・ 上記機会を活用した規制緩和や補助金等の助成制度の拡充実現に取り組む。

② MICE 関連団体との横軸連携による発信力増大

- ・ 日展協、JACE、MPI 等関連団体との共同企画の実施や連名によるプレスリリースなど発信力増大を目指す（観光庁に加え、経済産業省をはじめとした他省庁へも訴求する）。
- ・ MICE 業界全体の認知度向上も念頭に、人材獲得のためのセミナーや人材育成のための新人向け研修機会の提供など JCMA 単独実施より高い効果が期待できる活動を検討する。
- ・ 海外 MOU 団体との情報共有・交流を通じ、MICE テクノロジーやサステナビリティ、MICE レガシー効果等のグローバルのトレンド把握とその発信。
- ・ 大阪・関西万博開催に向けた関係諸団体との連携強化による MICE 認知拡大の促進。

③ メディアリレーション強化と情報発信力の向上

- ・ 業界紙のみならず一般メディアを含め情報発信を強化する。メディアとの懇談の場を設けるなど具体的な接点を増やす。
- ・ 従来 of 協会 WEB サイト・メールマガジンを更に強化し、会員への情報リーチ度向上を通して参画者増加を目指す。加えて、運用の安全性に留意した SNS 活用を検討する。
- ・ 委員会活動等における動画素材収集に努め、発信コンテンツには映像を活用するなど、学生をはじめとした多様なユーザーを想定したコンテンツ拡充を促進する。

④ 寄附講座の実施

- ・ 学生、就活生をターゲットとした大学等での寄附講座・キャリアセミナーを実施する。

活動方針の詳細

2. 「委員会活動の充実」

コロナ禍が新たな局面となる今、その活動を一気に活性化する時である。委員会活動が JCMA の中心柱であることに従来から変わりはないが、一層加速するためには委員間連携を強固にする取り組みと共に、各委員会がより会員メリット・業界発展を見据えた活動を志向し実行する必要がある。加えて、MICE 業界の今後を担う、次世代人材の獲得と育成に重点を置いた委員会活動を充実させる。

① 委員間・委員会間交流強化

- ・ 委員長会議の定期開催による委員長間連携を強化。
- ・ 委員会開催等に付随した委員会懇親会の実施を奨励（会議費の予算化検討）。

② 委員会間連携による事業・催事の充実（規模・予算の効率活用）

- ・ 委員会間での企画連携により、催事等の質的向上、参加人数の増加、予算執行の効率化を図る。また、単独委員会に閉じない委員の関係性構築を目指すとともに、総合的にみた各委員会の負担軽減を図る。
- ・ 催事実施に付随する参加者交流会の実施、企画に応じたプレスリリースなど委員会活動の実施インパクト増大を図る。

③ 委員構成の増強（次世代若手人材の育成）

- ・ 委員会内での次世代人材（若手メンバー）の副委員長等への登用検討。
- ・ JCMA 催事等での若手人材の積極的な登用（登壇や司会等の役割）。
- ・ 委員会に未参画の会員企業への参画依頼、促進。

④ 協会 10 周年事業のプロジェクトチーム発足

- ・ 2025 年 4 月に 10 周年を迎えるにあたり、記念事業を検討するためのプロジェクトチームを立ち上げる。若手を中心に各委員会から委員選出するなどオール JCMA で取り組める体制づくりを検討する。
- ・ プレ事業を含め 10 周年に向けた機運醸成に取り組む。

活動方針の詳細

3. 「リアル交流の復活/強化」

オンラインテクノロジーの有用性は理解・享受しながらも、改めてその価値が再認識されたリアル交流。JCMAにおいてはコロナ禍で途絶えがちとなった会員間のリアル交流の機会を取り戻す。また、会員間交流に留まらず MICE 関連団体と広く交流機会を創出し、地方・地域との交流機会の設定、DE&I（ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン）を念頭に多様な参画者の獲得を強化する。

① 会員交流の復活（サマーセミナー、委員会総会の実施）

- ・ 3年ぶりとなる JCMA 全会員向けサマーセミナー実施。
- ・ 各委員会で活動する全委員を対象とする委員会総会（交流会：新設）の実施を検討。
- ・ 会員交流が促進されることによる、会員間ビジネスマッチングの機会の提供。

② 多様な会員の協会活動への参画促進

- ・ 新規入会検討企業に対する、JCMA 催事へのお試し参加を通じた機会提供、会員獲得活動の促進
- ・ JCMA 催事を活用した積極的な会員勧誘活動を展開する。

③ 最新テクノロジー等を活用したリアル交流の強化

- ・ リアル交流の場での最新テクノロジー導入・紹介など特に次世代、若手が興味をもち参加しやすいコンテンツを充実させる。
- ・ 参加者同士の交流がより促進される参加型アクティビティー等の活用を図る。

④ 関連国際団体との交流強化

- ・ 海外 MOU 団体との関係を次の段階へ進化させる取り組みの検討。

4. 「次世代育成と継承」

前述 1.～3.の活動方針を貫く根底の考え方として、「次世代育成と継承」を据える。JCMA の全ての活動や目標設定においては、MICE 業界の更なる発展を今後支えていく若手世代の育成と、伝統・実績の継承を常に念頭におき進める必要がある。そのためには、役員を筆頭に協会全体で「次世代育成と継承」にコミットする。

① 協会としての次世代育成と継承へのコミットメント

- ・ 次世代人材の自主的な取り組みを促し、それを支援する。
- ・ 委員会活動、協会催事などを通じて若手メンバーに意見を求める。また意見しやすい環境を整える。
- ・ 協会活動の様々な場面においてできる限り次世代人材を巻き込み、あるいは抜擢し、それを支える。